

PRO-LIFE

中絶に反対する運動

1997年9月 No.83

胎児を守る運動

人の命は神からの賜物

「臓器移植の場合に限って、脳死を人の死とする」。長年続いてきた「脳死論争」にこのような答えがでました。しかし提案者側も、脳死を人の死とする社会的合意が十分とはいえない」と認めています。人の死という厳然たる事実を法律で決めてもらわなければ死の判定ができないということ、世界でも例を見ないことでしょう。

母の胎内に宿った時に始まる生命、その終わりにある死に対して、教会は非常に慎重な態度をとっています。キリストは、人間には唯一回だけの人生しかなく、しかも死後、神のみ許で永遠に生きることが教えています。輪廻転生はありません。死後の世界を確実に信じている人と信じない人では、この世での最後である死を迎える姿勢も違ってくるでしょう。死後の世界を信じる者ならば、ガンを告知された後に、親しい者との再会を希望して、平安な気持ちで苦しみを耐えることができるかもしれません。もし死が人間



の最後であつて、その後は無に帰するということならば、死は限りなく恐ろしいものとなります。創世紀には、死は罪の罰として入ったと記されています。原罪の結果、人間が死の恐怖にさらされるようになりました。しかし、この世での死による別れは、親しい者にとって辛い、悲しいものです。

臓器移植は、本人や身内の承諾を得てなされる愛の実践そのものであり、英雄的行為とも言えるでしょう。死後にだけ移植できる臓器に関しては、臓器の提供者の死が確実となることが大切です。人の死は、神との出会いにおける最も神秘的な瞬間です。誰であつても、死を人為的に速めたり不必要に引き伸ばしたりするべきではありません。そのために「尊厳死」も認められる行為です。

の諸国の医学界では、脳死と心臓死の両方を死と認めています。脳波が平坦になつても、脈拍、体温もある場合には、ただちに臓器提供に進めることは、心情的になかなか難しいことでしょう。この問題については、今後とも医学界、法曹界など、様々な分野で意見や検討がなされると思います。臓器移植はドナーを待つ患者や家族にとっては福音とも思われる出来事となるでしょうが、十分に調査して慎重に実施しなければなりません。

「適正な移植の実施が保証される」ことが遺族にとって大切ではないか」という投書が新聞に掲載されてきました。交通事故で、一時間後に病院で死亡した夫が、腎臓提供の意志表示をした「臓器提供カード」や「アイバンク登録票」などを所持していたにもかかわらず、家族に死が知らされたのが死後十二時間は過ぎていたということでした。欧米では、キリスト教の影響のためか、死後の世界への希望を持ちながら、脳死を死と認め、臓器移植が実施されています。もちろん適正な方法でとられるでしょう。

カトリックの教えでは、死とは魂が肉体を離れる時と定義しています。その「時」については、医学に任せています。日本以外



植物人間と言われる状態は、脳死とは全く異なります。まだ脳死に至っていない状態であり、蘇生する可能性もあります。医療としては、ドナーを待っている人の病気を癒し、命を助けるために、一刻も早い臓器の提供と移植を望むでしょうが、一般には人工呼吸器をつけて自己呼吸ができない人にも、実にたくさんの治療を施して延命に努めているという矛盾も見られます。

「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ」(ヨフ記 一章二十一)。

人間の生命は神からの賜物です。神が与え、また、それを取り上げられるのです。人間がこの世に生を受ける時とこの世を離れる時は、人生にとって最も神秘的な瞬間です。神ご自身の創造の業の介入の時です。人間がそれに関わる時は、畏敬の念が必要でしょう。

濱尾文郎(横浜司教)

看病する権利

医師団は必死に老人の命を救おうとしました。彼は一週間前に肺炎を起こして入院していたのです。その病院には何度か来ていたので、看護婦は彼のことをよく知っていて、陽気な笑顔の感じのよい患者だといつも思っていました。彼の病状は、この忘れられない火曜日の朝までは良くなってきていました。ところが突然肺に水がたまり、そのことで体に非常に負担がかかり、心臓が停止してしまいました。一人の医師が、「奥さんと呼ばない！家族をすぐここに連れてきなさい！」と叫びました。

彼の妻が病院に駆けつけて目のあたりにしたのは、永年連れ添った夫が人工呼吸器につながれて、ぐったりとして横たわっている姿でした。医師団はまだ必死になって彼の命を救おうとしていましたが、その時彼の妻の口から、「まあ、なんてひどい死に方なんでしょう。」という言葉が飛び出しました。

救急医療班の一人の若い医師が彼女の方を振り向いて、「呼吸を停止させる注射を今すぐ射つ

こともできるんですがどうしますか？あなた次第ですが。」と言いました。

結局、その83才になる男性は、幸せな長寿を享受していたのでした。彼はまた前立腺癌と肺気腫も患っていました。

彼は一度もリビングウィル（署名者が不治の病などにかかった場合に、医師・肉親などに延命処置をとらないように事前に表明した遺言状）にサインをしていませんでした。というのは、彼と娘はそのようなものを作るこの問題点について話し合ったことがあったからでした。彼には将来の医療の状況がどうなるかはつきりとはわかりませんでした。その上、そのような宣言をしても内容があいまいで、家族でさえも誤った解釈をしやすいくらいのことです。もし万一そのような問題が生じたら、慈悲深い神様と、愛する家族と、熟練した医師の手にゆだねることに、彼は決心したのでした。今、命を救うのが仕事である医師が彼の命を救おうと力を尽くして

「それは絶対しないで下さい。私達にはそのような決定をする権利はありません。命を与え、奪うのは神様なのです。」というのが彼女の返事でした。その医師は肩をすくめ、救急処置が続けられませんでした。みんなが驚いたことに、その患者は目を開け、妻を確認し、すばやく両腕を彼女に回したのでした。

タイミングよく入ってきたベネディクト会の神父は目の前で起きていることを見て、びっくり仰天しました。彼は大きなベネディクト会の記事を、今微笑んでいる患者の上に置きました。その女性と神父は神様の慈悲を求めてお祈りを始めました。彼は本当に慈悲を受けたのでした。二時間経たないうちに、彼から人工呼吸器が外され、自分で呼吸を始めました。医師達もびっくり仰天しました。

彼の娘が、一晩中かかって翌日病院に着いた時、彼女の父親は、「生きているはずではなかった」ということを知らされました。医師達も、どういう訳で彼が生き続けているのかわかりませんでした。

私達の社会は神様からあまりにも遠く離れてしまっただけで、日常の営みの中の神様の存在を忘れてしまったのでしょうか。私達は洗脳されすぎて、あらゆる場面で命の尊厳を見失ってしまっ

たのでしょうか。

私達の社会の中には、医師も含めて、非常に積極的に、安楽死を人々に受け入れさせようとしている人々がいます。そのような人々が、リビングウィルを導入したのです。彼らは、安楽死を許可する法律を制定しようとする時に、私達がショックを受けないように、私達が「尊厳死」のことを考えることに慣れさせようとしているのです。

私が思うには、彼らがそうする主たる理由は、彼らが苦しむことを恐れているからなのです。しかし、苦しみは神様の人間に対する計画の一部なのです。誰にとっても、苦しむことは恐いことですが、もし私達がキリストの苦しみと死と合わせてその苦しみを受け入れるならば、私達は他の人々に救いをもたらす手助けをすることができるようになります。なんと素晴らしい使命なのでしょう。神様の力を借りて、私達は、私達のために大いに耐えられたキリストのためにあらゆることに耐えることができるのです。

この話のなかの男性と女性は、私の両親なのです。この出来事が起こったのは一年以上も前でした。父は退院して家に帰ってきました。確かに彼は毎日痛みや苦しみを感じていましたが、神様がお与えになった一日一日に深く感謝していました。彼は今まで以上に神様を身近に感じていました。もしあの医師が彼の呼吸を停止させる注射を射っていたら、どんなに素晴らしいことが失われていたことでしょうか。命を奪うことについて決断を下す前に、考えそして祈りましょう。なぜなら命はとても貴重なものなのですから。

一九九六年四月二日、私の父は他界しました。彼の死はたくさんの祝福に満たされています。そしてそのことで私はリビングウィルが必要がないともつと確信を持つようになりました。

お父さん、お母さん、私に命と



エミリー・アトキンス

高齢者のいのち、病者のいのち

46

いのちが終わりを迎える時期についても、ここで触れておきます。聖書が、高齢者や病人を尊ぶことに関する現代の問題についてはっきりと語ってくれるのではないが、あるいはこのような人たちの死を力づくで早める企てを明確に断罪するのではないかと期待するのは時代錯誤です。聖書の文化的、宗教的な文脈は、そのような関心とはまったく接点がありません。実にその文脈においては、高齢者の知恵と経験は、家族や社会を豊かにするまたとない源泉だと理解されています。

高齢は高潔さを特徴とし、敬意をもって遇されます(マカパイ下6・23参照)。義人は高齢とそれに伴う重荷からの解放を求めません。それどころか、彼は次のように祈ります。「主よ、あなたはわたしの希望。主よ、わたしは若いときからあなたにより頼んできました。・・・わたしが老いて白髪になっても、神よ、どうか捨て去らないでください。み腕のわざを、力強いみわざを、来るべき世代に語り伝えさせてください」(詩編71・5, 18) メシア時代の理想は、「年老いて長寿を満たさない者もなくなる」(イザヤ65・20)時代として示されます。

高齢に達したとき、避けては通れないいのちの衰退に、人はどのように対処すべきでしょうか。死を目前にしてどのようにすべきでしょうか。信仰者は、自らのいのちが神の手のうちにあることを知っています。「主よ、あなたこそわたしの運命を支えるかた」(詩編16・5参照)と祈り、信仰者は死ぬべき運命を神から受け取ります。「死の宣告を恐れるな。・・・この宣告は生あるものすべてに主から下される。なぜおまえは、いと高きかたのみ旨に逆らうのか」(シラ41・3-4)。人間はいのちの主でもなく、死の主でもありません。生きるにしても死ぬにしても、人間は、「いと高きかたのみ旨」に、そのかたのいつくしみの計画に、全面的に身をゆだねなければなりません。

病の床にあるときにも、人間は同様の信頼を主にささげ、また「病をすべていやす」(詩編103・3参照)かたへの根本的な信仰を持ち直すよう促されます。人間の目には健康を取り戻す望みが断たれたと映るときも、信仰者はこう叫び祈ります。「わたしの生涯は移ろう影、草のように枯れていく」(詩編102・12)。そのときこそ、信仰者は、いのちを与える力である神への揺るぎない信仰によって力づけられます。そのような信仰者は、病気だからといって絶望することはない、死を求めることもありません。むしろ、希望のうちにこう叫び祈ります。「わたしは信じる、『激しい苦しみに襲われている』と言うときも」(詩編116・10)。

「わたしの神、主よ、叫び求めるわたしをあなたはいやしてくださいました。主よ、あなたはわたしの魂をよみから引き上げ、墓穴に下ることを免れさせ、わたしにいのちを得させてくださいました」(詩編30・3-4)。

47

イエスの使命には多くのいやしのわざが含まれますが、これは、神が人間の身体的ないのちについても、強い関心を抱いていることを示します。イエスは、「体と魂のいやし手」として父から遣わされたのですが、それは、貧しい人により知らせを告げるためであり、打ちひしがれた人をいやすためでした(ルカ4・18、イザヤ61・1参照)。後にイエスが弟子たちを世に遣わすとき、イエスは弟子たちに使命を与えました。それは、福音をのべ伝えることに加え、病人をいやすことも同時に行うというものでした。「行って、『天の国は近づいた』とのべ伝えなさい。病人をいやし、死者を生き返らせ、らい病を患っている人を清くし、悪霊を追い払いなさい」(マタイ10・7-8。マルコ6・13, 16・18参照)。

信仰者にとっては、地上に生きる体のいのちが絶対的な善ではないのは確かです。より大きな善のために自らのいのちを断念しなければならない場合には、とりわけそうです。イエスはこう言います。「自分のいのちを救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のためにいのちを失う者は、それを救うのである」(マルコ8・35)。これについては、新約聖書に多数の事例があります。イエスは自らを犠牲にすることをためらわず、また自分のいのちを自由に関心する(ヨハネ10・17参照)そして自分の羊のための(ヨハネ10・15参照)ささげものとなりました。救い主の先駆者である洗礼者ヨハネの死も、この世でのいのちが絶対的な善ではないことをあかしします。何より重要なのは、たとえいのちが危機にさらされても、主のことばに忠実に踏みとどまることです(マルコ6・17-29参照)。ステファノは、よみがえりの主をあくまでも忠実にあかししたために地上でのいのちを失ったのですが、彼は師であるイエスの足跡に従い、石を投げつける人々に神のゆるしを願う言葉をもって相対したのです(使徒言行録7・59-60参照)。こうしてステファノは、教会がその最初の時代以来崇敬してやまない殉教者の群れの最初の者となりました。

とはいえ、生きるか死ぬかを自分勝手に選択することは、だれにもできません。そのような決断をつかさどる絶対的な力を持つのは創造主だけです。わたしたちは、そのかたのうちに「生き、動き、存在する」(使徒言行録17・28)のです。

世界最新情報

絶 ルーマニアにおける中絶

ヨーロッパの中で、一番中絶率が高い国はどこか。確実な統計はないが、それはロシア或いはルーマニアのいずれかの国だと思われる。国連人口基金によると、ルーマニアはヨーロッパで一番中絶率が高い。一九九〇年、独裁者、ニコラエ・ソーセスクの政権転覆直後、ルーマニアの中絶率は一人の出産に対して3.2件の中絶という高率に跳ね上がっている。

速 世界人口増加率の減

国連による新しい調査によると、世界各国において人口は予想よりもゆっくり増加していることが分かった。毎年の世界人口の増加率は、国連が予想していたよりも早く減速を始めた。このような資料を集めている国連人口部門の役員である、ジョセフ・チャイム氏は、「数年前からこういった減速が始まっている兆候が見られたが、我々はま

だ確信を持っていなかった。しかし、今はこれが世界的な傾向であるという具体的な結果を持っている。」と言う。国連の新しい統計では、一九九〇年から一九九五年の間に世界の人口増加率が1.57%から1.48%に減少したことを示している。具体的な数字では、一人の女性に対して3.1の子どもだったのが、今は2.96の子どもとなっている。

国連はようやく、ここ何年もの間明らかになってきたことを認め始めた。人口増加に対して警戒感を持っている人は、今やもう正当化できない、誇張された数字を、自分達の主張に使っている。世界の先進国では過去二十年以上、出生率は人口の補充レベル内に押さえられている。現在、開発途上国でも同じ方向へ向かう傾向が強まっている。

南アフリカ共和

国一悪いニュース

南アフリカで中絶を合法化する法律が可決、採択された。上院での投票結果は49対21、そして20の棄権であった。下院では既

に可決されており、マンデラ大統領が署名をした。中絶反対団体である「ドクターズ・フォア・ライフ」は、立憲裁判所にこの法律を訴える。

ネパール

七月に、ネパールの国会に中絶を合法化する法案が提出された。現在ネパールでは中絶は違法であり、罰則は最長三年間の投獄である。立法者スハンダリは、「この法律は、高い出生死亡率を押さえ、女性の生殖の権利を守るために必要」だとする、使い古した根拠のない主張を持って訴えた。

ポーランドの法律

第二次世界大戦中、ナチスはポーランド人には中絶を認めないが、「純粋な」ドイツ人女性には無条件に中絶を禁止した。共産主義体制下の一九五六年には再び中絶は合法化され、二千五百万人ものポーランド人の赤ちゃんが殺害された。

一九八九年に自由が戻り、中絶に関する全国的な討論が続いた。一九九三年一月、ついに中絶を認めないとする法律が可決され中絶数は年間十万件から一九九五年には五百九十五件へとめざましい減少を遂げるに至った。男女同権主義者は、違法な中

絶から死亡する女性が増加すると訴えたが、実際にはこれ以降違法或いは合法、いずれの中絶によっても、女性が死亡したとの届け出は一件もなかった。同時に、流産や早産の数も意味ありげに減少し、流産することを理由に中絶へと誘導することが根拠のないことであることをはっきりと証明した。また、殺されたり、捨てられたりした新生児の数は50%も減少した。さらに、男女同権主義者が予測した人口の急激な増大は起こらず、年間の出生率は今や補充レベル以下に止まっている。

一九九五年、再び中絶を合法化しようとする試みはワレサ大統領の拒否権によって失敗した。しかし、前共産主義者、クワスキーフスキー大統領の当選によって、ポーランド国会の大半を、生命反対論者、家族反対論者である社会主義者が占める中、状況は劇的に悪化した。中絶を妊娠三ヶ月目までは認め、その後も理由によっては認めるという新しい法案が提出された。この法案は国連人口活動基金の代表者らによって強く支持された。

十月三日にポーランド上院で投票が実施された。当日、中絶に反対する大規模な全国的なデモが行われた。ポーランド上院では52対40で中絶反対となったが、上院で

の議決を覆す権利を持つ下院へと戻され、十一月二十日、クザクレブスキー大統領は自由裁量を許す法案を法律化した。この新しい法律は「経済的、そして感情的」理由、つまり個人の要求によって、中絶を認めるものである。

二人目の患者

お腹の中の四ヶ月になる赤ちゃんへの骨髄移植は、この赤ちゃんの命を救った。この赤ちゃんは、そのままにしておいたら生命に関わる、重症結合性免疫不全症候群という遺伝子の病気を持っていた。「ニュー・イングランド・ジャーナル・オブ・メディシン」は十二月十二日にこの赤ちゃんが13ヶ月目には完全に回復したとの記事を載せている。これはこのよう成功した治療の最初の例である。この記者は、同じような治療法が鎌形細胞性貧血のような他の遺伝子の病気にも使えるのではと希望を持っている。

RU486：利用度

フランスでは、中絶患者の内約25%がRU486を選んでいて、スウェーデンではその数値は19%、イギリスでは6%である。この会社のフランスの代表者は、「多くの女性はピルを服用することによって、中絶に対して自分達の全責任を感じてしまうため、服用を

避けようとす。しかし、より強い精神的な苦痛が伴うこともあり得るのである。」と述べている。

バチカン―UNICEFへの寄付中止

十一月四日、バチカンは毎年行っていたUNICEFへの寄付を中断させると発表した。その説明は以下の通りである。UNICEFは「産児制限プログラムと中絶擁護者との関わりを持つようになった。象徴的な寄付をする習慣を見送る決断をしたのはローマ教皇庁のUNICEFの活動の変化に対する関心が強まった結果である。その活動の変化とは、既に不足している経済的そして人間的な資源を、国連からUNICEFに与えられた特定の権限を超えた他の分野へ、方向転換しようとしていることである。」

最初の赤ちゃん宿所

我々の知識の中での最初の赤ちゃん宿所は今でも機能している。それはイギリスのリバプールで開業した。幼児安楽死運動に対する、完全な生命擁護の回答として支えられている。このセンターには六つのベッドがあり、四歳まで欠陥を持つ子

ども達の面倒を見ている。開業して以来、ほとんど常に満杯であった。一生この住人となる不治の病の子ども達の面倒も見ている。また、一、三日の間、家族が休息と睡眠をとり、日常生活に戻れるようにするための休息の場にも使われている。既に、施設を拡大する話も出てきている。

プロ・ライフ

マーガレット・コースレン

「マーガレットは自分の死を予感していました。」

34才で、マーガレットは息子を二人、娘を二人、合計四人の子どもをすでに産んでいました。5回目の妊娠中に、胎盤が胎児に十分な栄養を供給してなく、胎児の体重が増えるどころか、減り続けているという状態になりました。

帝王切開が必要でしたが、それは胎児を成長させるために先に延ばされていました。やっと彼女がアンジェラを出産した時、その小さな少女の体重は9ポンドくらいしかありませんでした。初めて赤ちゃんのアンジェラを腕に抱いた時、マーガレットは彼女を、「私の小さな天使」と呼びました。

マーガレットは大量に出血し、肺には血液のかたまりとともに水がたまっていました。彼女は

『この事実、あなたはご存知でしたか?』

中国では、カトリック教徒が「人工的な避妊は悪である」というその教えのために迫害されています。現在、このような国は中国一国だけです。

北部のへんぴな村々では、カトリック教徒の夫婦が家を押収され、鎖で逆さまに吊し上げられ、打たれ、電気椅子にかけられ、氷点下の中を裸で立たされることを強要されてきています。また、人によっては、一年間の賃金と等価のものを罰金として払わされています。

彼らの「罪」？子どもを二人以上持つことです。中国では「子どもを一人増やすぐらいなら墓を増やす方がましだ」というスローガン掲げているのです。

死と闘っていました。フリットルモの輸血を受けたにもかかわらず、20人以上もの人々が待合室で彼女のために祈るなか、数時間後、彼女は亡くなりました。「妻のマーガレットは、英雄的行為、つまり子どもたちの苦しみと、独りで闘っていたのではありませんでした。私は彼女と結婚したことを誇りに思っています。私は彼女をいつまでも聖人だと思いつけることができますでしょう。私達は日々彼女が私達と共にいること感じます。彼女は今も私達の心の中で生き続けています。」と夫のレックスは話していました。

col.HF 1-2/96pp15

あなたは今読んでいる内容は、ロイター通信社国際ニュースサービスとユナイテッド・プレス・インターナショナルが報じたものです。あなたはこの内容について地元の新聞ですでに読んでいますか？もしまだなら、ぜひ読みましょう。

祈りの言葉

中国で迫害された人達のために祈りましょう。神に対する深い信仰のために迫害され、それに苦しみ耐えている人達のために祈りましょう。神がその力で中国の役人の心を圧倒し、そして神の正義が全ての中国政

府の活動の基礎となるように祈りましょう。

神よ、私は私の祈りと、断食と、犠牲とを中国で神のために迫害を受けている人達に捧げます。彼らがあなたを必要としている時は、どうぞあなたの慈悲で彼らをお包みください。ああ神よ、今まで私がこの世の中の悪に立ち向かうことができなかったことをどうかお許しください。そして、日々の生活の中でもより良い働きをし、あなたに仕えられるようお導きください。そして、私と他の無数の人達との努力によって、中国の人達をあなたの元へ導くことになるようお助けください。アーメン。

プロ・ライフ

シングル・マザーに手を差し伸べよう

自分の子どもを手放すという罪を犯さないでいる勇氣を持つ女性達を、励まし助けてあげるといふ大きな必要性を認める事も、私達中絶反対主義を支持する者にとって、避けられない。その子ども達は神にとって貴重な存在で、同じくその両親も神にとつて貴重なのだ！私達がそういう女性達に、「子どもを中絶するな！」と言っておいて、くるりと背を向け、まるで彼女等を泥

の様に見下すのは、醜い偽善である。イエス様は不義の現行で囚われた女性に対しても、決してそんな事はしなかった。何の罪も持たない者だけが石を投げなさい、と彼女への非難者達におっしゃっただけである。

イエス様は神のすべての子ども達、結婚生活から生まれた子どもと親も含めて、その子ども達の為に死んで下さったのである。

プロ・ライフ

これは私のからだです

人類を救うために主イエスが使われた「これは私のからだです。」と同じ言葉が、中絶を勧めるためにも使われているのをご存じでしたか。同じ言葉が、全く正反対の意味で話されているのです。

聖書には、全ての人間を救うために亡くなられる日の前夜、主イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子達に与えて、「取って食べなさい。これは私のからだです。」と言われたと書いてあります。イエスは翌日何が起こるかを暗示されていたのです。翌日イエスは自分の体を十字架の上で捧げられることになつていたのでした。私達が生きられるように、イエスは自らを犠牲にされ、罪や死の力を打ち砕くために、自分の体を捧げられました。その結果、私達を主の命、主の領域に飲んで迎え入れ、主の体の一部にして下さいました。

一方、中絶の支持者は、「これは私のからだです。だから邪魔しないで下さい。このからだは私のものなのですから、たとえからだの中に宿る命を殺すこと

になつても、私のしたいようにできるのです。自分のからだが一番で、他のことは全て二の次なのです。」と言つたのです。実際、ある中絶支持者は、「はっきり言って、中絶反対論者の神は、私の身体と比べれば何の価値もないのです。」と書いています。(ミッシェル・ゴールドバーグが一九九五年、バツファロー大学の学生新聞の「声を大にして中絶選択の権利を求めよ」という記事の中でそう述べています。)

「これは私のからだです。」同じ言葉でも結果は違つたのです。キリストは他のものが生きるために自分のからだを捧げられたのですが、中絶の支持者達は他のものを殺して自分のからだに執着しているのです。自らのからだを捧げることで、キリストは、他の人のために自分自身を犠牲にするという愛の意味を教え、一方中絶は、自分自身のために他の人を犠牲にするという、愛とは反対のことを教えているのです。

「これは私のからだです。」もし本当に私達のからだだが私達のものであるなら、次に、「なぜ？」

と問かけてみましょう。その答は、お互いを、そして神様を愛するために、私達のからだを、私達の命を、自分自身を、捧げることができるといふことになつていふこと。キリストは、「私を覚えてこれを行ないなさい。」と明言されました。キリストは自ら行なわれたことを私達にもするよう求めておられるのです。そして、まさにそうすることで、私達は中絶へと向かう力を逆転させることができるのです。

親は、「これは私のからだ、私の命です。だからあちらへ行きなさい。」と言つたのではなく、「これはあなたに捧げる、私のからだ、私の命です。」と言わなければならぬのです。

人間の幸福や満足感は、他の人を押し退けることによつて見いだされるものでは決してありません。それらは自分自身を押しやる時に見いだされるものなのです。

「これは私のからだです。」同じ言葉が、こんなに違つた目的のために使われるのは決して偶然のことではないのです。そこには精神的な葛藤が渦巻いているのです。自己犠牲の精神を持つてこれらの言葉通りに実践すれば、私達は、自分自身の人生において、この世の中で勝利を収めることができるのです。

フランク・ペイボン神父

真実なきまま 崩壊する自由

「善を行い、あなたたちを認めぬ悪かな人々の口を閉ざさせることこそ神の御旨である。自由民としてふるまうても、その自由を悪事の覆いとせず、神のしもべとしてふるまへ。」(ペテロの第一の手紙 2:15-16)

当然のことながら、ここで言う自由とは、自分達に反対する人々へも忍耐と愛をもつて応えるべきだと信じている。

だが、中絶という方法により自分達の仲間を殺そうと世界規模の殺りくを提唱する人々にはどう対応すべきか。自由の名のもとに、殺りくを歓迎し支持し認める人々をも黙つて見過ごすつもりなのか？

将来私達の弟や妹となる胎児も社会の一員ではないのか？彼らに自由はないのか？

そもそも自由とは何なのか？

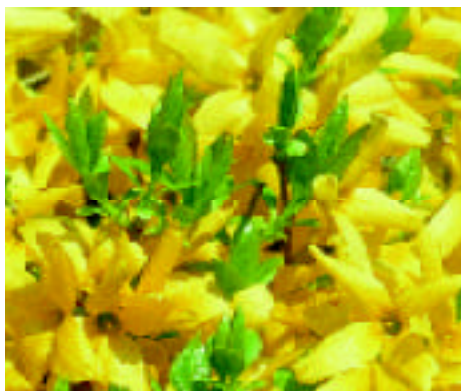
聖ヨハネ・パウロ2世は、「いのちの福音」の中で、「自由が本質的に真理に結びつくことをもはや認めず尊重もしないなら、自由は自己を否定し、自己を破壊するのであり、ひいては他者を破壊へと引きずり込む要因となります。」(第19章)聖アウグスチ

又その「罪から解き放たれた時、初めて自由と言える」という言葉と一致する。

中絶は犯罪だ、それも凶悪な。神が大切にしている最も無垢でか弱い命を奪うのだから。中絶は悪だ、あつてはならない、決して容認されてはいけない!

だから、中絶容認派に賛同する人達に呼びかけねばならない。私達は神との約束により、社会の中の小さな命を抹消する行為は、ひとつたりとも賛成したり協力してはならない。「善を行ない、あなたたちを認めぬ悪かな人々の口を閉ざさせることこそ神の御旨である。」

ノボトー・ジェリー.com



日本プロ・ライフ・ムーブメント事務所

「中絶に反対する運動」

〒780高知市新本町一丁目7-31

電話/Fax 0888-73-3619 e-mail: nvt56n@ps.inforiyoma.or.jp

事務所時間：

月一金 01:00- 17:30
日のみ 10:30- 14:00
土曜日 休み

会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円

一万円 五千元 一千元

無料: 毎月プロ・ライフ・ニュースレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さい命を大切に育みましょう。

御送金

銀行：四国銀行朝倉支店
口座番号：0573553
日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局：「郵便振替」
現在口座番号：01660-5-39607
日本プロ・ライフ・ムーブメント

事務所便り

今年の夏は隣の家の軒下の電灯につばめが巣を作り、親鳥が餌を運ぶ様子、まだ飛べないひな鳥の前に四羽の巣立ちしたひな達がどこからかやってきて、その巣のそばを、このように飛ぶんだよ」と先輩顔で教えるように飛び回っている様子を、朝、玄関へ主人を見送りにいくたびに楽しみに見つめていました。そして、七月十九日にはそのひな達もりつぱに巣立ちし、一日だけは近くの電線に止まっていたのですが、次の日からは遠くに飛んで行ったようです。こんな小さなつばめの中に人間社会のまさに幸せの基本を教えられる思いをしたものです。

学校関係では二学期がスタート致しました。皆様お元気にお過ごしでしょうか。一学期には、神戸で日本中を震かんさせた大事件がおこりました。強者から弱者へのいじめ。私達の社会は何かマヒしてしまっているようで恐ろしくなることがあります。中絶問題も老人問題も弱者へのいじめが基にあるのでしょうか。

九月十五日は敬老の日です。このような時代だからこそ、自分の身内のお年寄、そして、隣近所のお年寄に思いを馳せて、お年寄のつぶやきに耳をすましてみませんか。

尚、事務所では「脳死」についてのあなたの考えをお待ちしています。どうか御送り下さいますようお願い申し上げます。

九月六日、七日の両日、第二回自然な家族計画の研修会が開かれます。

暑さはまだまだ続きそうです。夏の疲れもそろそろ出てくる頃です。どうか皆様、御身体を充分御自愛下さいませ。

日本プロ・ライフ・ムーブメント

中絶をいつか後悔する

あなたが中絶をしたことは、神にはすべてお見通しだ。ごまかそうとしても見抜かれている。人生においてあなたが辿る道を用意するのは神だ。あなたがすべきことは？

1. 罪の言い訳をしない。ダビド王のように「あなたに向かつて、私は罪を犯し、御目の前に悪事を行った。」(詩篇五十一：6)と罪を悔い認めなさい。自分自身や他人を傷つけた時、最大の罪は生けるすべてを司る神に対するものだと思いつきなさい。

今、中絶したことを告白していないなら、神の前だけではなく、教会の主任や親しい友人にも打ち明けるべきだ。告白することで、自分のうちの苦しさは洗い流され、安心した気持ちになれるだろう。

2. 告白し後悔したら、罪の意識にとらわれすぎないように。イエスが姦淫をしている時につかまえられた女に対し、「私もあなたを罰しない。行け、これからはもう罪を犯さぬように。」(ヨハネによる福音書八：11)と言ったのを思い出しなさい。

自分自身や周囲から責められたら次の言葉を書きなさい。「自分の罪を告白するなら、真実な正しい神は私たちの罪をゆるし、すべての不義を清めてくださる。」(ヨハネの第一の手紙一：9)。神が中絶を許してくれたのだから、他のだれにもあなたを責める権利はない。

3. 自分の罪深き行為を熟考し充分に後悔したなら、神の許しのもとに気分を変えなさい。聖書の中から神の許しと愛情を讀み取れる部分を探して線を引こう。詩篇にたくさんあるが、例えば「主は慈しみとあわれみ、怒るに

おそく愛に満ちたもので、つねにあらがわず、いつまでも恨みを残されぬ。」(詩篇一〇三：8-9)のよう

な。
4. 日々の祈りを深めなさい。気分が落ち込んだら神に話しかけよう。親しい友人に話すよう、神に心を打ち明けない。誰よりも神が心の支えになつてくれるはずだ。「彼はこい求める貧しい者と、助けなきあわれな者とを救い。」(詩篇七二：12)。主はあなたの呼びかけを心待ちにしている。あなたの考えに反対する人が、あなたが神と一体になれるわけがないと言ってもしれない。だがキリストを受け入れる人は皆、神の近くにいます。あなたがキリストを信じるならば、神は自分の息子が人間のために流した血と、愛という布を通して見守ってくれるだろう。

5. 教会の仲間とつきあいを密にしない。教会で会うだけでは足りない。グループを作って集まり、もっとよく知り合いなさい。夢や希望や痛みや要求も分かち合い、共に祈りなさい。

6. あなたの助けを必要とする女性や少女の所へ導いてもらえるよう、主に願いなさい。中絶による心の後遺症を克服し、神の許しと復活を信じるあなたこそが、他人を理解し励ますにふさわしい。神は、あらゆる患難のうちにある私たちを慰めてくださる。それは神から受ける慰めによって、私たちにも、多くの患難のうちにいる人々を慰めさせるためである。「コリント人への第二の手紙一：4」
神は何ひとつ無駄にしない。あなたの人